

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774401232		
法人名	有限会社 ローズマリー		
事業所名	グループホームみんなの家(おなべ)		
所在地	大阪府大阪市城東区諏訪2丁目8番4-604号 5・6階		
自己評価作成日	平成21年12月15日	評価結果市町村受理日	平成22年6月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2774401232&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成22年1月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>あたたかく地域の方に見守られて生活しています。アットホームで皆さんの笑顔が素敵です。みんなで、「元気で長生き」を目標に頑張っています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>住宅街のマンション内にある当該ホームは、理念である「地域に溶け込みみんなでつくるぬくもりのある家」を意識し、毎日の散歩を通じて地域の方とのふれあいや交流を多く持ち、楽しく活気のある日々を過ごしています。ケアプランに沿って日々の介護記録を細かく記載し情報を共有することで、重度化やターミナル期になっても利用者本位の生活を維持し、家族や医師、職員が1つになって積極的なケアがなされています。また、ホームでの研修に疑似体験やロールプレイを多く取り入れ、一人ひとりの受け入れ方の違いで状況が変わる事を職員全員が理解し、常に利用者の立場になってのケアが実践され、サービスの向上を目指しています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共有し地域の方との触れ合いも大切にしている	「地域に溶け込みみんなでつくるぬくもりのある家」をホーム独自の理念としています。ミーティングや勉強会で理念について実践出来ているか話し合い意識しながらケアに当たっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩を定時間にする事で地域の高齢者や幼児達も顔を見せて下さる。商店や病院も出来るだけ近隣にする事で交流を持てる。スタッフも率先的に地域の方とコミュニケーションを持つように心掛けている	毎日の散歩で出会う地域の方や幼児達、近隣での買い物や通院、ボランティア、老人会を通じて多くの方と触れ合う機会を持っています。また、管理者は地域の方の相談や悩みごとに応じる役割もされ、キャラバンメイトで講師となりホームからの発信もされています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアに来て頂くなどありのままの姿を見ていただいている。また、キャラバンメイトとしての活動をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	その都度、行政で取り上げられている内容にも着目しホームでのあり方や対処方法を話し合い理解と協力を得ている	家族や老人会代表、ボランティア団体代表などが参加する運営推進会議を2~3か月に1回、開催しています。ホームから利用者や行事状況を報告し、介護保険についての説明などを行っています。参加者から地域の行事を教えてくださいホームへの要望や助言を頂いています。	市の職員や地域包括支援センターにも参加を呼びかけていますが、日程の都合で参加されていません。今後も継続しての呼びかけや日程変更なども考えながら取り組まれることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者に情報提供しケアサービス内容を伝え、現状を理解してもらっている	運営推進会議録を開催後持参しています。市の担当者とは利用者の状況を伝えたり、困難事例などの相談などをして関係を持つようにしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昨年同様、拘束のない生活を意識し実践している	色々な場面での事例を用いて研修しています。ケアの中でその方を思っの言動も制限に値する可能性がある事に気付き、振り返る機会を持ち話し合っています。また、ホーム玄関はチャイムでの対応をして全職員で見守りを怠らず取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	昨年同様、虐待のない環境を意識し実践している。		

グループホーム みんなの家(おなべ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会にて学ぶ機会を持っている。また活用できるように支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理念・方針を十分説明を行い不安・疑問などに答え契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時、意見を傾聴できるように面会時などに対応して運営の見直しに反映させている	重要事項説明書に相談窓口を記載し、意見箱を玄関に置いています。来訪時には直接コミュニケーションを取り、聴き出す様にし、日々利用者や家族からの声を大切に職員で話し合い改善策を伝えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、意見を傾聴できるように対応して運営の見直しに反映させている	直接言えない疑問や悩みを職員用に意見箱として休憩室に置いています。内容によっては職員で話し合い改善策を考え、管理者は休憩時間はいつでも相談に乗れる様に、職員の様子や体調面も気にかけてながら声掛けをしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の思いを知るように心掛け、笑顔で仕事が出来、どうすればモチベーションが維持できるのか勉強している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修のみでなく随時対応方法で悩みなどを解決できるように助言しともに考えている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同区の事業所のネットワークのみでなく訪問など交流を持ち刺激を受けつつ向上できるように取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式の活用により入居前に把握を出来る様に努め、入居後の生活に生かしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時より、不安・要望などを傾聴し、入居後に電話や手紙などで報告するなど対応している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階では特に精神面などの把握に努めかかわりを密にし慎重に支援方法を考えている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の自己決定できる場面をもち共同生活している仲間として関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報を提供し本人の生活に興味を感じて頂き、協力を得ている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に訪問して頂けるように馴染みの関係を継続できるように対応している	今までの生活歴を大切にしています。入居以前に住んでいた地域の商店街や動物園、パチンコ、卓球場などに行っています。また、利用者の友達がホームに遊びに来てくれることもあり馴染みの関係が継続できるように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係を把握し、互いに支えあい理解し合える関係作りに努めている		

グループホーム みんなの家(おなべ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係を大切にし、相談や支援をしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向を随時傾聴し、検討している	入居前に、家族にセンター方式の用紙に記入してもらい情報を得ています。また、日々の会話や行動、表情から把握できるように努め、職員会議で利用者の状況や問題点などを常に話し合い職員が共有できるようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の活用によりその人を知り、受け入れて対応している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別に一日の過ごし方、心身状況、有する力の現状を周知し今後のケアに活用している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の生活課題と目標を明確にし、本人・家族を始めそれに携わる者で検討し介護計画を作成している	家族や利用者から意見や要望を聞きながら職員の意見も取り入れ一人ひとりに合わせた介護計画を作成しています。職員は特記事項や気づきを日々の記録に細かく記録し毎月モニタリングを行い、医師や看護師からの意見やアドバイスも介護計画に反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や心身状態・ケア内容・実践内容・気づき等記入し、情報共有し介護計画見直しに生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の意向や状況に応じて検討し、家族・ボランティアの協力を得て取り組んでいる		

グループホーム みんなの家(おなべ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握し、利用する事でその人らしく生活するために必要な資源を活用できるように努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との情報交換を密にし、いつでも連絡が出来る関係作りにて、本人や家族・職員にとって安心できるように対応している	入居時に、今までのかかりつけ医を継続できることを説明しています。往診が月に1回あり医師の携帯番号を教えてください、いつでも連絡が取れるようになっていきます。訪問歯科や鍼灸医の訪問もあります。また、職員に看護師がおり安心して生活ができるように支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場の看護師に症状を伝え、個々の利用者が適切な医療が受ける事のできる体制をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換をし本人が環境の違う場で安心して治療が受けれるような体制をとっている。また退院時安堵出来る場として感じて頂けるように配慮している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時より家族の意向や本人の意向を尋ね、事業所の方針と出来る範囲を理解してもらってから契約している。かかりつけ医などと連携をとり支援している	ホームでの看取りが出来る事を説明し、ホームと家族の方針が同じと理解してもらった上で、同意を頂いています。今までも看取りの経験があり、職員や家族の思いを1つにして、その状況になれば医師や家族、職員が話し合いを持ちながら積極的に支援し取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生に備えて、定期的に勉強し実践できるように努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防所の協力を得て、どのような対応が理想的なのか指導を受け周知している	年に2回消防署立会いの下、アドバイスを頂きながら避難訓練をしています。消火器の使い方などマンションの住民も参加してもらい一緒にを行っています。また、同マンション内の高齢者賃貸住宅の方にも参加を呼びかけています。	現在は、マンション住民の一人が参加されていますが、運営推進会議で話題にしてマンション以外の方にも参加してもらい、一緒に避難訓練ができるよう働きかけをされてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を大切にし自尊心を傷つけない対応をしている。プライバシーの確保のため、人格の尊重に配慮している	声掛けの仕方や利用者の立場になったの対応、職員自信が気づけるように疑似体験やロールプレイを兼ねた勉強会を年に6回しています。また、個人情報の記録物は、事務スペースの鍵の掛かる書庫に保管しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の何げない場面でも自己選択・決定出来る環境にしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースを配慮し対応できるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類なども自己選択・決定のもと支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人の力量や感性などを発揮できる場として、一緒に食事作りや後片付けをしている	食材屋から配達されるメニューを基に利用者の希望も取り入れながら献立を考えています。野菜を切ったり下ごしらえ、盛り付け、食器拭き、後片付けなど出来る事に一緒に取り組んでいます。また、職員も一緒にテーブルに着き同じものを頂いています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態や体調を配慮し、その人に応じた形態にし摂取量など把握し記載している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月1度訪問歯科に受診し、指示を受けている。毎食後歯磨きなどの口腔ケアを支援し、誤嚥性肺炎予防に努めている		

グループホーム みんなの家(おなべ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りオムツなどを使用するのではなく排泄リズムを知り対応している	排泄チェック表を利用して、必要があれば声掛けを行い利用者に応じて、紙パンツ、パッドも使用し、自尊心に配慮しながらトイレでの排泄ができるように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	原因を検討し、摂取内容・水分量・運動量なども見直している。またかかりつけ医にも相談している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個室での個別対応に喜ばれる事が多くコミュニケーションの場としても大切にしている	午後1時30分から3時位まで毎日準備しています。雨の日は朝10時から12時まで準備し朝風呂を楽しみ喜ばれています。週に2回は入れる様に支援し、希望があれば毎日も可能で、拒否傾向の利用者には時間を変えたり職員の対応の工夫でどの方も気持ちよく入浴されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないよう夜間の良眠の確保につながる支援を心掛けている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的と副作用を周知している。誤薬・飲み忘れのないように了解を得て介助している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴・好み・機能的な事も考慮し、活気のある生活と、生きがいを見いだせる支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩のみでなく、地域の行事や催しにも参加している。また外出レク等も行い気分転換など楽しむ機会を支援している	毎日の散歩が日課となっています。雨の日以外は車椅子の利用者も出かけ、散歩コースとなっている藤棚の公園で地域の方と体操をしたり、会話をすることが楽しみとなっています。また、地域行事の秋祭りなどにも出かけています。	

グループホーム みんなの家(おなべ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出レク時など財布にお金を持参され、力に応じ買い物など支払いを出来る環境を作っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族・友人などに気軽に連絡が出来る支援をしている。また携帯電話を活用している方もいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着けるように配慮しつつ季節を感じる事の出来る壁画などをみんなで制作し暖かい場所になるようにしている	玄関を入ると利用者や職員の写真を取り入れた1つの家に見立てた作品が飾られています。リビングには毎月季節に合わせた貼り絵を飾り、ソファでは、利用者同士が仲良く会話できる場所が設けてあります。また、温度調節には気を配り何処にいても居心地よく過ごせるように工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファなどでゆっくり会話が楽しめるなどの環境づくりをしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みのあるものを持参して頂き、その人の個性・好みの部屋になっている	入居前、職員が手作りしたいくつかの表札から、好きなものを選んでもらい掲げています。出来るだけ今まで使っていたものを家族と相談しながらベッドやタンス仏壇、ぬいぐるみなどを持ち込んでもらい家族の写真やカレンダーなどを飾り居心地のいい居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険な障害物となるようなものはないか考慮し、安全で快適な生活が出来る様に支援している		